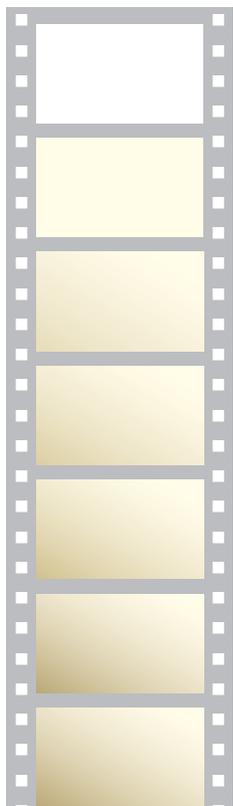
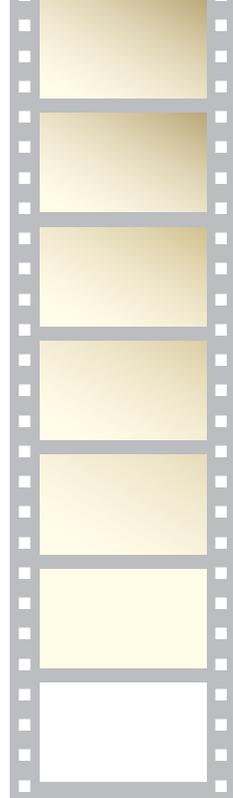


伸<sup>ノブ</sup>さんのシネマトーク

鈴木 伸夫





## 第四十三回 「DJって何？」 ③

仙台に初めて登場したDJ喫茶の売り物は、何と言ってもディスクジョッキー。当時配布していたパンフレットが手元にありますが、DJは9人（男性5人、女性4人）。コンサートのタイムは午後1時～午後2時、午後4時～午後5時、午後6時～午後7時、午後9時～午後10時と、一日（月～金）4回となっています。また、日曜日は「ベスト10」の発表で午後2時から午後9時半まで。これは、お客の流れに合わせて編成にしてあるのです。

番組は、月曜日「ポピュラーミュージック」、火曜日「ラテンミュージック」、水曜日「ジャズ&ウエスタン」、木曜日「スクリーン&セミクラシック」、金曜日「軽音楽」、土曜日「ミュージックハイライト」と曜日ごとにわかれています。

DJの男性メンバーには、高校時代の先輩、後輩、大学の先輩がいましたが、ほとんどTG大放送研究会のメンバーでした。その連絡役のメンバーの一人に「T坊」というニックネームの同級生がいました。ある日T坊が「喫茶R」のシステムにつ

いて教えてくれたのです。

「喫茶R」は「Tプロ」と契約していて、「Tプロ」がDJの番組編成やDJのローテーションなどを仕切っていること、「喫茶R」に代わる新しいDJ喫茶が仙台駅前オープンすることになった。そんななか、「Tプロ」が契約料金値上げを「喫茶R」へ要求して、ギャラのことでもめている。

このままだと、新しい「DJ喫茶L」と「Tプロ」が専属契約を結べば、「喫茶R」にいるDJは全員新しい「DJ喫茶L」へ移ることになり、老舗の「喫茶R」にDJがいなくなる。

T坊は、「いまの状況はそこまで。また、情報が入りしだい教えるから」と約束して学校へ行きました。

次にT坊が持ってきた情報は最悪のものでしたが、ぼくのようにDJの座を狙っている人間にとって前途に光明のさす情報でした。

結局、「R」と「Tプロ」の話はまとまらず、「R」のDJは「L」へ移ることになった。そして「R」で空いたDJの穴は、一般から募集する。そのまとめ役は、

仙台のT放送でアナウンサーとして6年勤務し、脱サラをして、仙台市内の虎屋横丁で「V」というアクセサリーの店を奥さん（元T放送局アナ）とともに経営しているKさんに決まった。DJをやりたい人は、Kさんの面接を受けること。

T坊の情報は、ぼくにとつて大きなチャンスでした。ぼくはKさんが現役アナの時からファンで、洋楽に強く、アナウンスセンスも抜群なのに、なぜアナウンサーをやめ起業の道を選んだのかわかりませんでした。

面接を受けたぼくに、Kさんは「一週間に一度、アナウンス講習をします。講習料はいりません。時間があれば「R」へ来て早く慣れるようにして下さい。」ぼくはこの言葉を聞いて、目指す人、目指すものに出会えた気持ちでした。（続）

（文中敬称略）

伸

平成24年5月